

自閉症抱え創作 江南の沢崎さん

絵を販売 自立へ一歩

自閉症を抱えながら創作を続ける江南市の沢崎良太さん(二〇)の絵画が二十四日、購入を申し出た一宮市内の会社を受け渡された。高校時代から本格的に学び始めた絵画が売れたのは初めてで、支援者は「自立への第一歩だ」と喜ぶ。

(猿渡健留)



焼き芋を描いた絵画を手にする沢崎さん(中)と、指導する鈴木さん(左)＝一宮市朝日2で

販売が決まったのは、沢崎さんが好きな焼き芋を描いた一枚。計二百二十本の

色鉛筆で塗り分け、紫色の皮や黄色い中身を少しずつ濃淡をつけて表現。イモの質感も出した。

購入したのは一宮市朝日二の不動産会社「ピュアフイールド」。障害のある子どもにも美術などを教えるNPO法人「響愛学園」(同

市時之島)に絵の制作を依頼し、中学二年から高校三年まで学んだ沢崎さんに白羽の矢が立った。

沢崎さんは現在、障害のある作家たちを支援する団体「パラ・アーティスト・マネージメント協会」(名古屋市内)に所属。一宮市内にある同団体のアトリエで絵を描いている。

絵の受け渡しに立ち会った沢崎さんは、指導を受ける絵画講師の鈴木学さん(四三)から「上手に描けたね」と褒められ、「うん」と笑顔でうなずいた。鈴木さんは「独特の世界観で絵を描くことができる子。彼の作品が評価されて夢のような気分だ」と話した。

一宮の不動産会社が購入